経営比較分析表（令和元年度決算）

大阪府地方独立行政法人堺市立病院機構　堺市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	**診療科数**	**DPC対象病院**	**特殊診療機能　※１**	**指定病院の状況　※２**
直営	35	対象	ド 透 Ｉ 訓 ガ	救 臨 が 感 災 地 輪
人口（人）	**建物面積（㎡）**	**不採算地区病院**	**看護配置**	
－	41,014	非該当	７ ： １	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
480	－	－
許可病床（精神）	**許可病床（感染症）**	**許可病床（合計）**
－	7	487
稼働病床（一般）	**稼働病床（療養）**	**稼働病床（一般＋療養）**
480	－	480

グラフ凡例
- ■　当該病院値（当該値）
- ー　類似病院平均値（平均値）
- 【】　令和元年度全国平均

※１　ド…人間ドック　透…人工透析　Ｉ…ＩＣＵ・ＣＣＵ 未…ＮＩＣＵ・未熟児室　訓…運動機能訓練室　ガ…ガン（放射線）診療
※２　救…救急告示病院　臨…臨床研修病院　が…がん診療連携拠点病院　感…感染症指定医療機関　へ…へき地医療拠点病院　災…災害拠点病院　地…地域医療支援病院　特…特定機能病院　輪…病院群輪番制病院

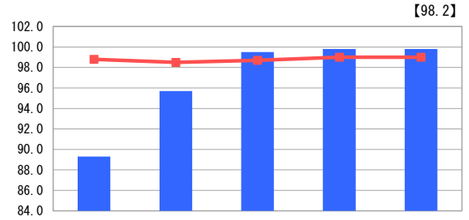
公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
－ 年度	－ 年度	－ 年度

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

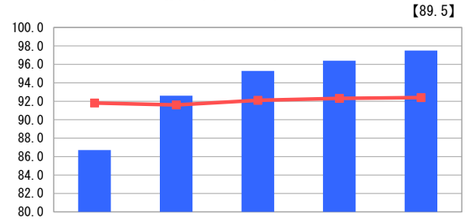
【98.2】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	89.3	95.7	99.5	99.8	99.8
平均値	98.8	98.5	98.7	99.0	99.0

②医業収支比率(%)

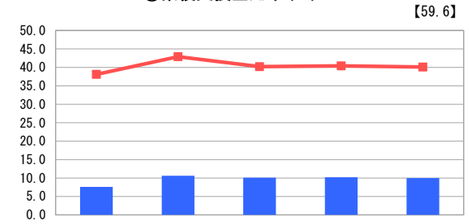
【89.5】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	86.7	92.6	95.3	96.4	97.5
平均値	91.8	91.6	92.1	92.3	92.4

③累積欠損金比率(%)

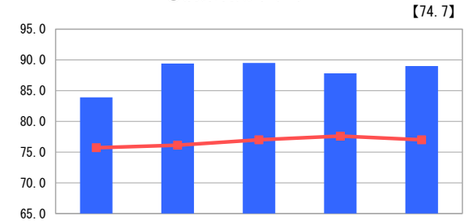
【59.6】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	7.6	10.6	10.1	10.2	10.0
平均値	38.1	42.9	40.2	40.4	40.1

④病床利用率(%)

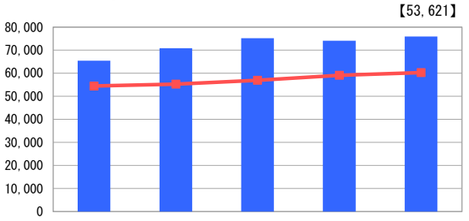
【74.7】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	83.9	89.4	89.5	87.8	89.0
平均値	75.7	76.1	77.0	77.6	77.0

⑤入院患者１人１日当たり収益(円)

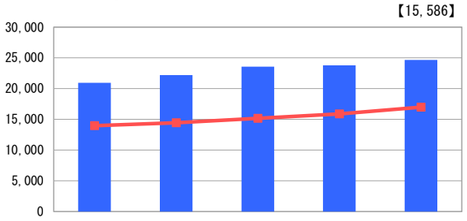
【53,621】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	65,418	70,880	75,216	74,091	75,918
平均値	54,464	55,265	56,892	59,108	60,271

⑥外来患者１人１日当たり収益(円)

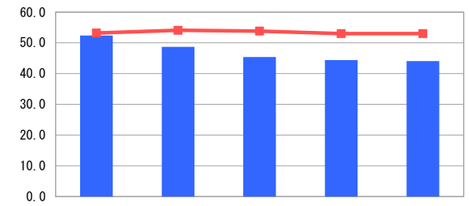
【15,586】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	20,936	22,200	23,567	23,794	24,663
平均値	13,969	14,455	15,171	15,887	16,979

⑦職員給与費対医業収益比率(%)

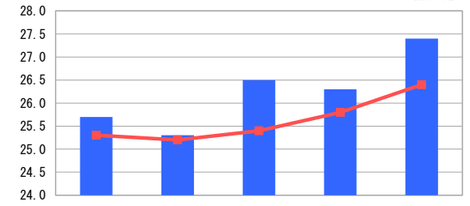
【54.6】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	52.4	48.7	45.4	44.4	44.1
平均値	53.2	54.1	53.8	53.0	53.0

⑧材料費対医業収益比率(%)

【25.0】

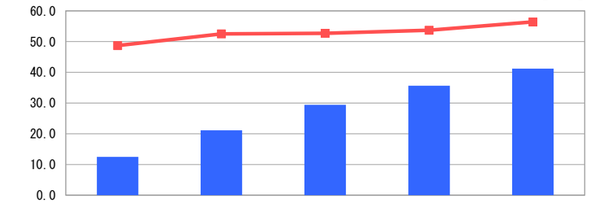


	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	25.7	25.3	26.5	26.3	27.4
平均値	25.3	25.2	25.4	25.8	26.4

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

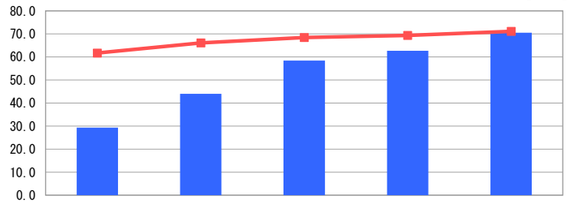
【53.5】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	12.5	21.1	29.4	35.6	41.2
平均値	48.7	52.5	52.7	53.7	56.4

②器械備品減価償却率(%)

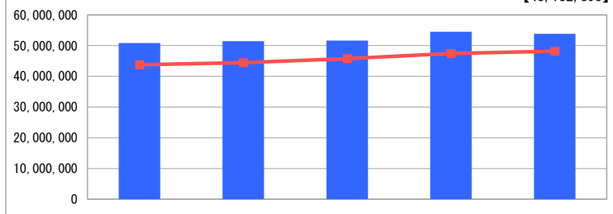
【70.0】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	29.3	44.0	58.4	62.7	70.5
平均値	61.7	66.1	68.4	69.3	71.1

③１床当たり有形固定資産(円)

【48,132,898】



	H27	H28	H29	H30	R01
当該値	50,838,897	51,437,495	51,632,150	54,492,910	53,841,965
平均値	43,764,424	44,446,754	45,729,936	47,442,477	48,164,556

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

Ⅰ　地域において担っている役割

・市内唯一の救命救急センターとして、二次救急及び三次救急医療。
・地域医療機関との連携と役割分担に基づき小児医療及び周産期医療。
・感染症指定医療機関として地域の感染症医療における中核的な役割。
・災害拠点病院として地域防災計画に基づく対応を的確に行い、医療救護活動の実施。
・二次医療圏内における小児救急搬送件数の約半数以上の受入れを行っている。

Ⅱ　分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支は、新型コロナウイルス感染症の影響も多少あったが、収支均衡に近づきつつある。
職員給与費対医業収益比率は、減少傾向にあり、効率よく収益確保を行っている。
また、材料費対医業収益比率においては類似病院を上回っている、これはがん患者等の増加により高額薬品の使用が増えた影響である。

2. 老朽化の状況について

平成27年度の新築移転により建物・構築物等および医療機器等更新、また平成30年度に電子カルテの更新を行っているため、有形固定資産の老朽化は進んでいない。逆に１床当たり有形固定資産は類似病院の平均を上回っているが、上記の理由によるもので令和2年度より、年々減少すると思われる。

全体総括

経常収支比率をはじめとするほとんどの指標において類似病院と比較しても好調ではあるが、材料費対医業収益比率は類似病院を上回っており、今後の課題としてさらに多様な契約手法の活用等により材料費の削減に取り組む必要がある。